

珈琲動向 Vol 20

相場見通

NY 先物相場につき、前月に引き続き、ファンド筋主導の下値を試す展開が続いており、156-165cts/lb のボックス圏内にて推移しています。

ロースターは 150-160cts/lb をターゲットとして現物カバーを進めている為、160cts/lb を割れても、その後すぐに反発して持ち直す展開となっています。

また、相場下落の影響から、ブラジル農家の販売は進捗しておらず、売渋りの姿勢も相場が反発した一因として挙げられます。

今後の動きとして、短期的には、ファンド筋がショートポジションをやや積み上げてきている為、同ポジションの手仕舞いによって若干相場が上昇する可能性があるが、中長期的には、ブラジル天候が 8 月も引き続き順調に推移していき、23/24 クロップの豊作が確実となれば、更なる相場下落が予想されます。

LDN 先物相場においては、引き続きベトナムロブスタの供給タイト感から高値圏内での推移を続けています。

一方でコニロンに関しては、NY 相場下落によってブラジル国内でコニロンからローグレードアラビカへの配合替えが進んできており、コニロンが認証在庫に回された場合には、現物の供給タイト感が弱まり、相場下落に繋がる可能性があります。

産地情報

ブラジル:

天候関連では、7月に入ってから目立った降雨は確認されておらず、気温に関しても特に冷え込みは確認されず、最低気温 5-15° C にて安定的に推移しています。

収穫に好ましい天候が続いていることから、実際に収穫の進捗も順調で、OFI 社によるとアラビカ種の収穫進捗率は、前年比+15%増の 67%に達しているとのこと。

一方で、8 月迄は本格的な 23/24 クロップの収穫は続く為、引き続き気温には注視していく必要がある 24/25 クロップに向けては、エルニーニョ現象による降雨量の減少が生産量に影響を及ぼす可能性が考えられるため、今後情報を収集していきます。

ブラジルコーヒー輸出協会 Cecafe より発表されている 2023 年 6 月の Monthly Report によると、2023 年 1-6 月の合計輸出量が 13.5 百万袋(60 kg/袋)と、昨年実績より 21%少ない数量となっている。同数量は 2019 年以降最少であり、200cts/lb 以上を経験した農家が直近の相場下落によって売渋りの姿勢を見せているという点は一因と考えられます。

一方で、日本向けに関しては、2023 年 1-6 月合計にて昨年比 23%増加の 1 百万袋を記

録しており、23 年 1-2 月の落ち込みの反動から、3 月以降、2022 年実績を上回る数量となり、特に 5-6 月にかけては 2 倍近くの数量に達しています。

(為替関連/その他)

➤ ブラジルリアルにつき、2023 年 3 月以降リアル高傾向での推移を続けており、2023 年 6 月は高値 R\$4.75~安値 R\$5.10 を記録しました。

現在、農業をはじめとするブラジル経済回復が期待されており、インフレも落ち着きを見せていることから、13.75%という高い水準で維持されている政策金利が、8 月からは穏やかな利下げサイクルに入る見込みとされており、実際に利下げに動いた際にはリアル高傾向が予想されます。

一方で、ブラジルの最大輸出国(30%)である中国経済の回復遅延に対する懸念があり、リアル安の要因となりかねません。

上記理由より 2023 年末までは、現在のレンジでの安定した推移が予想されます。

現在、日本政府はブラジル国民が観光などの目的で訪日する場合のビザ取得義務を 2023 年 10 月を目途に撤廃する方針を示しています。

2023 年 3 月にはブラジル政府が、「相互主義の原則」から日本国民に対して

2023 年 10 月 1 日より観光などの目的でブラジルを訪れる場合にビザの取得を求めると方針を打ち出していました。

日本側のビザ免除の準備が整えば、10 月以降もビザ取得無しでブラジルに渡航できる可能性があり、動向に注目していきたい。

コロンビア

FNC の商業本部長である Juan Camilo Ramos 氏が退職し、7/28 付けで新たに Esteban Ordoñez Simmonds 氏(旧 Logistics Director)が当職に就任することとなりました。

Esteban 氏は 15 年にもわたる FNC でのキャリアの中で、営業・品質管理・物流関連など多岐にわたる経験を積まれており、今後の手腕には注目が集まります。

産地では、ミタカクロップの収穫が現在約 90%まで完了し、高地での収穫を残す程度となっています。

直近は良好な天候が続き、ミタカクロップにおいては特段品質懸念も発生していません。

最新の IDEAM(水文学・

気象・環境研究所)からの発表によれば、主要コーヒー産地では、エルニーニョ現象の影響に伴い 8-10 月は例年に比べ 10-20%降水量が減少するも、11-1 月は例年通りに戻ると予測されています。

よって現状は、次回のメインクロップに関しても順調な収穫は予想されていますが、高温乾燥傾向はブロッカの活動を活発化させる為、ブロッカ被害の拡大は懸念されています。

加えて 11 月以降も乾燥傾向が続いた場合、次回のミタカクロップの開花状況に影響を及ぼす可能性もあり、引き続き今後の天候状況には注視していく必要があります。

国内においては、直近の NY 相場安、コロンビアペソ高、産地プレミアムの下落の影響で農家の買い取り価格は生産コストに近づいてきており、農家の売り渋り傾向が強まっています。

ミタカクロップで収穫されたコーヒーが農家や中間業者にて長期間保管されれば、不適切な保管環境から思わぬ品質懸念が発生する可能性もあり、今後船積される玉については追加で注意が必要です。

グアテマラ

グアテマラの主要コーヒー産地では適度な降雨が観測されており、2023/24 クロップのコーヒーの実は順調に生育。

天候面で見れば、収穫時期を迎える年末に向け、現時点ではネガティブ材料は聞かれていません。

しかしながら、サプライヤーの中には、肥料価格の高騰の中、ここ数年はコーヒーの木自体に施肥が十分施されない木も散見され、収量が伸びず、2023/24 クロップの生産量は昨年並みにとどまるとの見方から、年間生産量自体が昨年並み(3.0~3.1 百万袋)にとどまると要する見方もあります。

ペルー

22/23 クロップの収穫は、現時点で 42%程度まで進行。

晴天の中、先週末には降雨も適度に降り注ぎ、収穫は順調に推移。

輸出業者の農民からの買いは 28%まで進んでおり、国内外からの引き合いが活発になってきています。

今後 8 月にかけては、収穫は最盛期を迎えます。

ベトナム

ベトナムロブスタの需給逼迫は相変わらず変わっていません。

ベトナム国内の(精選前の)生豆の公示取引価格は、直近の 7 月 28 日時点でも 67,500VND/MT(=2,872USD/MT)にて推移、少なくとも最近 10 年では最高値圏にて推移しています。

サプライヤーはこの価格レベルですら、生豆を国内調達できる確証はなく、ノーオファーの状況が続いています。

サプライヤーによっては、既契約の生豆の調達、履行に苦心する中、今 22/23 クロップ (7~11 月積)を次 23/24 クロップ(11 月積以降)に遅らせる交渉を顧客と始める動きが出始めました。

このため、次 23/24 クロップの船積みが始まる 11 月、12 月積に需要が既に集中し、この時期の船積みのサプライヤーからのオファーも、既にノーオファー、又は数量制限されるといった状況となっており、需給逼迫状況は当面収まりそうにありません。

23/24 クロップの生産見込状況に関しては、今年の年末の収穫を前に、現在はコーヒーの実が育っていく大切な時期となっていますが、現時点では天候要因による減産懸念の声は出ていません。

エルニーニョ襲来により、この時期、少雨、乾燥となれば、減産懸念が囁かれてもおかしくはないですが、5~7 月にかけてのコーヒー産地の降水量は例年並みだった模様です。

ベトナムの 2024 年のテト休み(旧正月)は 2 月 10 日から始まる。例年は、11 月から収穫が始まり、年明けのテト休み前までには農民は 40%程度まで玉(ギョク)を売ると言われていますが、今年はコーヒー生豆価格が高止まりしている中、テト休み前に農民がすんなり売りを進めるか懐疑的な見方がサプライヤーの中にあります。

来年、年が明けても農民が売り渋る状況が続けば、ベトナム産ロブスタの価格の割高感は解消されない状況が続いているかもしれません。

エチオピア

エチオピアでは先月に 22/23 年度(7-6 月)を終え、年度の輸出統計等の発表が開始しています。

現地情報筋からの最新情報によると、22/23 年度の総輸出量は約 24 万トンと昨年度対比で約 20%減となりました。

一方輸出金額に関しては約 10%の減少にとどまっており、統計上も輸出金額の上昇傾向が窺えます。

加えて、政府が策定した予算対比でみると、輸出量は予算対比で約 30%減、輸出金額ベースでみると約 30%減とどちらも予算を大きく下回る結果となりました。

輸出量減少の主な要因は、NY 相場下落の一方で相場と連動性を欠いた最低輸出価格が足かせとなり、大幅な価格高騰が世界的な需要減退を招いたことにあります。

このような状況下、7 月に入り最低輸出価格は徐々に下落傾向にはあるものの、直近は NY 相場が底堅く推移していることもあり、各社様子見の状況が続いています。

但し、ニュークロップの収穫開始を 10 月頃に控え、政府からはカレントクロップの輸出を催促する動きが強くなりつつあり、各社カレントクロップの在庫を抱える中、期近では積極的なオファーが出てきています。

現状 NY 相場の目立った上げ材料は見当たらずボックス圏内での動きに終始することが予

想される中、割高感が解消されないエチオピアコーヒーの需要回復は見通しづらく、輸出業者にとっては厳しい状況が続きます。

いよいよ、ブラジル産地視察の日が近づいて参りました。

台風の影響もあり、無事に出発できるか不安ですが、行くからにはしっかりと情報を吸収して帰国したいと思います。

産地視察だけでなく、ブラジルのカフェ巡り、鑑定士講習も予定しておりますので、しっかり励んで参ります。

期間中は、受発注業務や、配送業務など、ご迷惑おかけいたしますが何卒ご理解の程、宜しくお願い致します。

それでは、皆様 まだまだ暑い日が続きますが、お体ご自愛頂き、この夏を乗り切って参りましょう。